

# 三鷹駅北口 交通環境基本方針の策定に向けた 研究会

第4回

報告書(案)、今後の進め方

【日時】 令和5年1月27日(金) 14時~16時

【会場】 武蔵野市役所 412会議室

# 本日のプログラム

- 1 はじめに
- 2 研究会（第3回）の振り返り
- 3 庁内・アドバイザー委員会（令和4年度第1回）等の開催結果について
- 4 報告書（案）について
- 5 今後の進め方について
- 6 その他連絡事項

# 1 はじめに

# はじめに

あいさつ

# 研究会の到達目標

## 三鷹駅北口交通環境基本方針の策定に向けた考え方

- 考え方1 駅周辺道路の交通体系の再編
- 考え方2 駅前広場の2ロータリー化
- 考え方3 駅前広場の拡張
- 考え方4 沿道の街並み誘導と低利用地のまちづくり



### 到達目標

- それぞれの考え方について、地域ニーズを踏まえ、必要性の観点で意見交換します。
- この結果を市で報告書として取りまとめます。

※実現性の観点（事業手法等）は、必要性を整理した後に検討予定

# 開催状況

分類	開催時期	実施内容・検討テーマ
研究会 (準備会)	令和4年 2月	目的と提言に向けた検討プロセスの確認
オープン ハウス	5月	街の将来像、考え方1～4等に関する意見収集
ワークショップ (2日間)	6月	
研究会 (第1回)	8月	将来イメージ・現状の問題点・ 考え方1 駅周辺道路の交通体系の再編
研究会 (第2回)	9月	考え方2 駅前広場の2ロータリー化 考え方3 駅前広場の拡張
研究会 (第3回)	10月	考え方4 沿道の街並み誘導と低利用地のまちづくり 報告書(素案)の検討
庁内・アドバ イザー委員会	12月	報告書(案)の取りまとめ状況 今後の進め方
<b>研究会 (第4回)</b>	<b>令和5年 1月</b>	<b>報告書(案) 今後の進め方</b>

## 2 研究会（第3回）の振り返り

# 研究会（第3回）の振り返り

## [考え方4 沿道の街並み誘導と低利用地のまちづくりについて]

- 沿道の街並み誘導にあたっては、通り毎の特性に応じた街並みが形成されると良い
- 行政には誘導手法等の検討や沿道住民の合意形成に向けた必要な支援をしてほしい
- コロナ禍による働き方改革の加速に伴い、これまで都心等に通勤していた会社員が在宅勤務で三鷹駅北口周辺にとどまっている。今後の街づくりの進め方次第で、こうした在宅者が三鷹駅北口で過ごす機会が増える可能性がある。にぎわいの観点からも道路や駅前広場の再整備に併せて、居心地が良く歩きたくなる歩行環境の形成や回遊性の向上等を図るべき
- 沿道の街並み誘導や低利用地のまちづくりの検討にあたっては、官民が連携できると良い
- 西側エリアについては、にぎわいが乏しいことから、民間開発の動向を捉え、駅前にふさわしい都市機能を積極的に誘導してほしい
- 民間開発にあたっては、景観面の工夫や空地の確保等、周辺のまちづくり等に配慮してほしい。また、働き方やライフスタイルの変化を踏まえ、アイレベル（歩行者目線）の作りこみに配慮してほしい
- 低利用地である自転車駐車場について、駐輪機能の確保を前提として、施設の立体化等でオープンスペースを創出し、有効活用してほしい

### アドバイザー

- 人々の外出率が低下している実態を踏まえ、三鷹駅北口に居場所を作ることが重要である。民有地に作る場合や道路上に作る場合等があり、駅まち空間の中でどのように作るかも重要である
- 沿道の街並み誘導については、事前にルールを作っておくことが重要である
- 自転車利用の多い地域特性や街づくりの観点から自転車駐車場は一定数確保する必要がある。確保にあたっては、にぎわいの観点から、民有地や公有地の地下に設置する方法も検討すると良い
- 地下空間の活用については、中央線や玉川上水等、駅周辺の様々な施設の位置関係を鑑みるに、ネットワークとして活用することは難しい



### **3 庁内・アドバイザー委員会 （令和4年度 第1回）等の 開催結果について**

# 庁内・アドバイザー委員会の開催結果

## [三鷹駅北口交通環境基本方針策定庁内委員会・アドバイザー委員会合同会議]

- 庁内委員会では、三鷹駅北口周辺の新たな交通体系や三鷹駅北口駅前広場の機能及び規模等に関する「三鷹駅北口交通環境基本方針」について、関係部署が集まり検討します。
- アドバイザー委員会では、都市交通計画などを専門分野とする学識経験者より、専門的な見地から庁内委員会へ助言を行います。

日時	令和4年12月1日（金）
場所	武蔵野市役所

- 「研究会報告書（案）の取りまとめ状況について」と「今後の進め方について」の2つのテーマで意見交換をしました。



# 庁内・アドバイザー委員会の開催結果

## [研究会報告書（案）の取りまとめ状況について]

- 駅前広場を設計する際は、長期・固定的な運用だけでなく、短期的に構造変更可能な設計が必要ではないか。利便性やにぎわいだけでなく、新しい移動手段の実用化や公共交通車両の規格変更等の急な変化にも対応できるよう考えることが必要である
- 駅前広場の2ロータリー化は他の地域でも整備事例がある。また、駅前広場でイベント等を行うことでにぎわいを作っている例もみられる
- 求める交通環境を実現させるために、建て替え時の規制や誘導の方針をどのように作るかが重要である。例えば、駐車場の附置義務制度について、規制の強化や緩和、誘導のメニューを交通環境の観点で検討すると良い
- 「三鷹駅に新しい交通環境をつくる」という新しさがあると良い
- 人中心のウォークアブルなまちを目指すうえで、交通手段が自家用車から自転車に変わることは肯定的に捉えるべきではないか
- 駐車場の附置義務制度は個々の建物に対するルールであるが、地域レベルで適用する考えもあるのではないか
- 自転車については、周辺自治体も含めた広域的な視点で考える必要がある
- 通勤・通学の自転車利用はコロナ禍においてもなくなることはなく、外縁部に自転車駐車を設け、駅まで歩く方針は堅持すべき
- 電動キックボードのような1人乗りのコンパクトな移動支援機器は短い移動を担う交通具として普及する可能性がある。これまでの自転車利用とは異なるため、これらのポート配置については別途議論すると良い。議論にあたっては安全性が最優先であり、動線は課題となる

# 庁内・アドバイザー委員会の開催結果

## [今後の進め方について]

- ロードマップでは主に公共空間の在り方が示されているが、民有地の空間の在り方も合わせて考える必要がある
- 公共空間を整備する際には、沿道の民有地と調整して整備すると良い。例えば、駅前広場を含めて再開発する場合、駅前広場の空間についての認識を調整するためにも、行政が意見を言える中立的な立場の組織を作ると良い
- 三鷹駅南口で再開発の動きがあると、駅利用者が増え、人流が錯綜するため、三鷹市と調整すると良い。また、歩調を合わせた対外的な発信も重要である
- まち歩きを行いながら、移動に配慮が必要な人や支援している人たちの意見を聞くような、インクルーシブな考え方を持った検討の場を設けてもらいたい。これからの議論では多様性を踏まえた意見を引き出すことが重要である
- 議論の場に先進技術を取り入れると良い。AR（拡張現実）やデジタル地図を活用すれば、現実と計画を融合させながら議論ができる

# バリアフリーネットワーク会議の開催結果

## [バリアフリーネットワーク会議]

- 障害をお持ちの当事者、バリアフリー化事業の実施主体である施設管理者や交通事業者等が集まりバリアフリー化の推進について意見交換します。

日時	令和4年11月22日（火）
場所	武蔵野芸能劇場、三鷹駅北口周辺

- 三鷹駅北口の交通街づくりについて、既にある障壁を除く『バリアフリー』にとどまらず、『ユニバーサルな空間づくり』の視点を早い段階から取り入れる目的で、当事者の方や施設管理者、交通事業者と意見交換を行いました。
- 現地を実際に歩いたうえで、ユニバーサルの視点で優れていると感じる他の駅前広場の事例を委員から紹介してもらおう等、将来の再整備に向けた様々なご意見をいただきました。



# 4 報告書（案）について

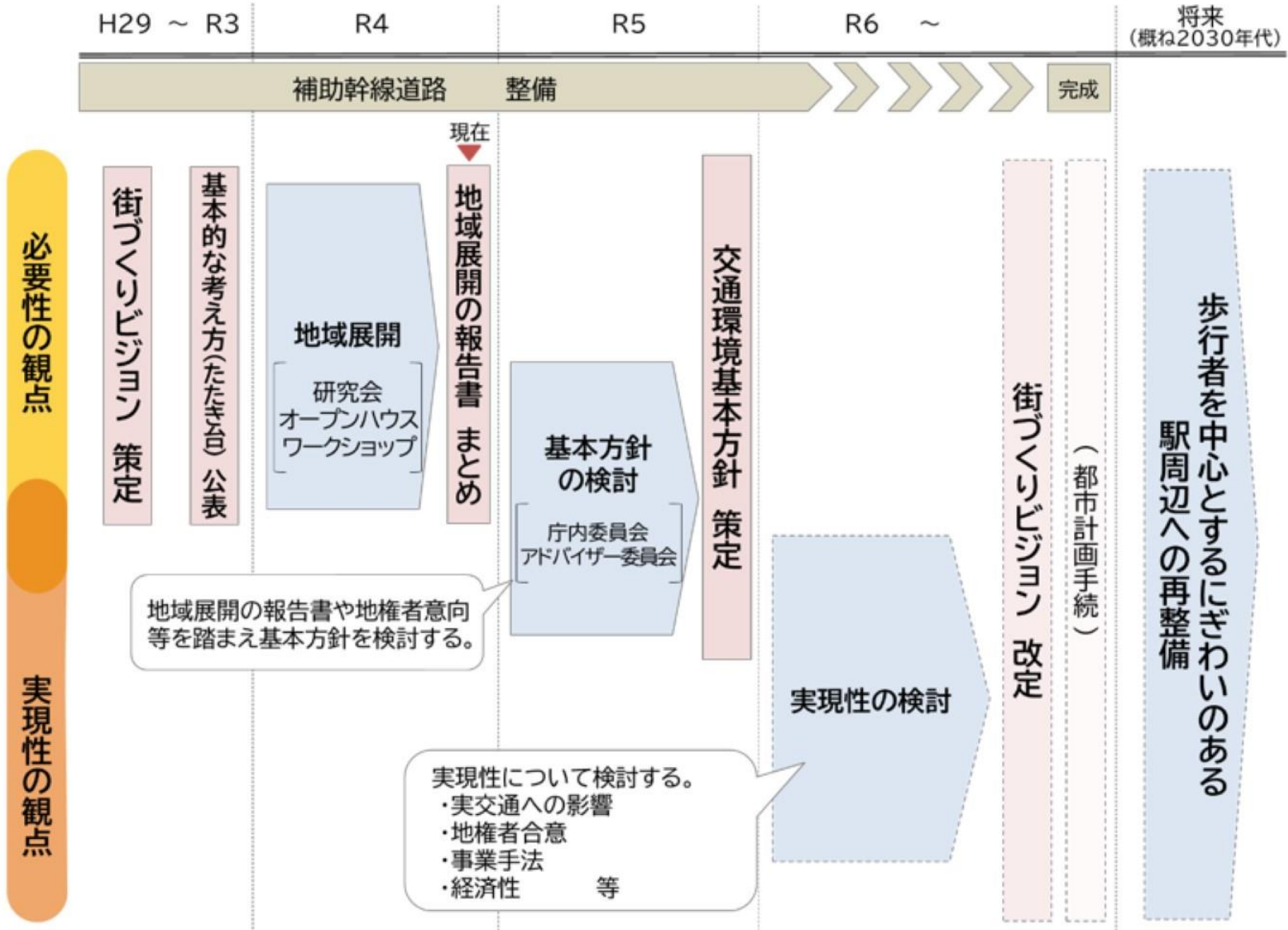


# 5 今後の進め方について



# ロードマップ (たたき台)

## 【交通環境整備に向けたロードマップ (たたき台)】



## 今後の進め方について

交通環境整備に向けたロードマップについて、  
どのようにお考えになったか伺います。

- 今後進めるうえで配慮してほしいこと 等

## 6 その他連絡事項